

名前 _____

理科

基本メニュー（☆☆☆）…必ずやりましょう。

	チェック
① 授業用テキストを読み直す 太字になっている部分は書いて覚えるとよい。	
② 宿題用テキストの基本問題A	
③ 宿題用テキストの基本問題B	
④ 宿題用テキストの復習問題	
⑤ 週テスト復習用を解く。	

応用メニュー（☆☆）…基本メニューが全て終わって余裕があれば、やりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題A	

発展メニュー（☆）…他の教科の宿題が終わって、さらに余裕があれば、やりましょう。

	チェック
① 宿題用テキストの練習問題B	

担当より一言

今回は、ものの溶け方その1について学習しました。

第26回、第27回のものの燃え方同様、ものの溶け方も入試では計算問題として出題されることが多い単元です。今回は、その計算に取り組むための前提となる知識を押さえる回となります。

ものの溶け方には3種類ありますが、メインとなるのは食塩やホウ酸が水にとけるとい、溶解についてです。

●溶けるとは、透明になる、どこも濃さが同じ、時間が経っても変わらない。

●溶けたものの取り出し方は、温度を下げる、水を蒸発させる。

この2点は必ず押さえておきましょう。

また、ろ過の方法は入試でもよく出題されます。

なぜ、ろうとの先のとがった方をビーカーの側面につけるのかについては記述問題としても出題されます。2つの理由を答えられるようにしてください。

意外と勘違いしやすいのが、ろ過はあくまでも「溶け残ったもの」を取り出すための方法です。水溶液に溶けているものは取り出すことができないことに注意しましょう。

次回は、今回の学習内容をふまえて、濃さと溶解度の計算問題を集中的に学習します。

※まとめテスト解答1の最後の問題表記につきまして、教場により誤りがありますので下記訂正いたします。

誤：問5

正：問10